

第七十五回社会を明るくする運動

柏支部



第七十五回社会を明るくする運動柏市大会が七月十二日にアミューゼ柏クリスタルホールにおいて開催されました。

当日は太田和美柏市長、高尾正義千葉保護観察所長代理が挨拶され、内閣総理大臣のメッセージを平野光俊氏が代読されました。



昨年の社会を明るくする運動千葉県作文コンテスト（中学校の部）において千葉県BBS連盟会長賞を受賞した千葉県立柏高等学校 松島蘭奈さん（受賞当時は柏市立柏第三中学校三年）が、受賞作文の「言葉を大切に」を朗読されました。朗読後に、市長から記念品が贈呈されました。

その後、少年問題アナリスト 上條理恵氏（東京経営短期大学特任准教授、元千葉県警察上席少年補導専門員）による「好きでこうなった訳じゃない、非行少年の背景を考える」と題する講演がありました。

休憩をはさんだ後、女声三重唱（メゾソプラノ 吉野真紀子氏、ソプラノ 井上香奈江氏、成嶋文子氏、ピアノ伴奏 小野博美氏）による、サウンドオブミュージックより「ひとりぼっちの羊飼いのハナミズキ」「母に贈るうた」の合唱が披露されました。また、「夏の思い出」「ふるさと」を、本大会参加者と一緒に合唱しました。

本大会に参加した椎名潤氏は「プログラム中、



女声三重唱

感銘を受けたのは、少年問題アナリストの上條理恵氏による講演でした。一時間以上に及んだその内容は、いずれも上條氏の豊富な経験と卓越した知見に基づくもので、どの言葉にも説得力があり、大変、参考になりました。

しかし、今後の実践にだけ活かすことができず、自身も問われると、自身の性格、個性もあり、なかなか難しいことを自覚したひとときでもありました。また、優秀作文に選ばれた松島蘭奈さんの発表は、我が身に振り返って、同じ年代の頃に、これほどの自覚と決意、表現力があつたかただ

流山支部

ただ驚くばかりで、次代の青少年に大いに期待できそうです」と感想を述べておりました。

令和五年から市内の中学校の吹奏楽部と音楽家を招き、ジョイントコンサートを開催しております。前半は保護司の活動などを紹介し、後半は音楽を通じて社会を明るくする運動の啓発を行っております。今年も同様に開催予定です。

保護司の経験もあり「生涯ロカビリー」を唄っているビリー諸川氏を、昨年八月にお招きし、保護司時代の経験談を交えながら、往年のロカビリーやオールディーズナンバーを熱唱していただきました。また、東部中学校の生徒による演奏が行われ、中学生とビリー諸川氏とのセッションを行いました。幕が閉じました。会場は終始笑顔が溢れていました。アンケートで



ビリー諸川氏

「保護司の活動をはじめ知った」「吹奏楽部の演奏が楽しかった」「ビリーさん最高でした」と好評な意見が多かったです。

我孫子支部

七月十二日、我孫子市生涯学習センター「アピスタ」及び手賀沼公園において、ティッシュ配付等の啓発活動及び子供さんを対象とした「ぬり絵」を実施しました。

ご来賓として、



手賀沼のうなぎちゃん

て星野順一郎我孫子市長丸智彦教育長などが参加されました。また、我孫子市立白山中学校の生徒九名などに加えて、手賀沼のうなぎちゃんが参加してくれました。

参加した小池秀一氏は「昨年同様、アピスタ及び手賀沼公園で街頭活動を実施しました。七月の開催で心配した暑さ対策も当日は活動にちょうど良い天気で、気持ちよく行う事ができました。白山中学校の生徒やBBS会員など新しい団体がたくさん参加してくださり、ボランティアの人数も昨年の倍以上でした。みんなが笑顔で楽しく終了することができました」と述べていました。



我孫子市生涯学習センター「アピスタ」

旧手賀教会堂を訪ねて



原胤昭 (はらたねあき)

昨年十月一日発行の第五十九号で、田中大輔千葉保護観察所長から、「原胤昭」および「旧手賀教会堂」が紹介されました。

柏市手賀地域には、更生保護事業に取り組んだ社会事業家である原胤昭が眠る原氏の墓所があります。

この地、賀沼や新利根、川の交通の要衝として栄えていました。

明治十四年、ニコライ大司教によってハリスト正教の手賀教会堂が建てられました。信者は、三百人を超えたと



原氏の墓所



旧手賀教会堂

民家を転用したわらぶき屋根の和風の建築で、旧手賀教会堂として現存し、千葉県指定有形文化財に指定されています。

令和二年度に保存修理工事が完了し、建物内を見学することができま

この旧手賀教会堂には、山下りんの描いたアイコン（聖像画）の複製が展示されています。

山下りんは、茨城県笠間市出身で、東京芸大の一期生、そしてロシアのエルミタージュ美術館でルネサンス期の絵に影響を受けたと言

われています。山下りんによるアイコンの顔は、優しい表情が特徴的です。西洋美術の中に、日本的な要素が感じられ、当時の人々にも受け入れられやすかったのかもしれない。実物は、新



新し手賀教会堂は、昭和四十九年、手賀狸穴（柏市手賀四二二）に建設され、今も信仰が続いています。（山下洋輔記）

皆様に感謝

前会長 小山恵子

平成七年に保護司を拝命して三十年、振り返ると色々なことがありました。平成九年、未熟な私は理事に推薦され、会計・総務部長、最後に会長を六年間、千葉県保護司会連合会の常務理事を五年間務めさせていただきました。

令和二年より、コロナ感染症により、研修会等、様々な行事の制限が余儀なくされました。この中で、柏市の深いご理解とご協力を頂き「柏地区更生保護サポートセンター」を開所することができました。地域の更生保護活動の拠点として、今後も幅広く利用されることを願っています。

令和二年に「柏市再犯防止推進計画」を策定して、更生保護関係団体と共に柏市長に要望書を提出。今年第五期に「柏市地域健康福祉計画」が策定され、当該要望書の内容が盛り込まれました。



令和3年12月 太田和美柏市長との面談

一方、対象者との出会いも沢山ありました。今でも心に残り忘れられない少年がいます。当時高校生で、面接日は必ず守ってくれました。しかし、アルバイトを始めてから少年の生活に変化が始まり、ある夜来訪した時に「友達から自殺しろと言われて包丁を渡された」と話していたので「持っているなら見せて」と言うとうと、鞆の中から薄汚れたタオルにくるんだ包丁を出してきました。私は、嘘の話だと思っていました

が、目の前で出されると胸がドキドキ、足はガタガタ。何とかしなくてはと思い「この包丁私に預けて。持っている」と自殺するよね」と言われて受取りました。そのうち、家に帰らず友達の家に泊まることが多くなりました。

お金がないので親のいない日中に家に帰り、食事をしようとした生活が始まり、高校も中退。最後は「虐待少年」として引致された。少年院送致となりました。数年後、少年から突然電話が入り「少年院退院後、更生保護施設に入り、当時の担当保護司に私の名前を言って連絡先を調べて頂き、電話している」とのこと。当時、少年が引致されたことは私の責任と思ひ悩みましたが、保護司活動の中で一番うれしく感じた忘れられない少年でした。

六年間大過なく会長の職務を遂行できたことはひとえに、観察官、保護司の皆様をはじめ、諸先輩のご指導、ご支援の賜物と深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。